日本ルイ・アームストロング協会

ワンダフルワールド通信 No.76

日本ルイ・アームストロング協会（ワンダフルワールド・ジャズ・ファウンデーション＝WJF） 2013年4月発行
〒279-0011 浦安市美浜 4-7-15 WJF 事務局 TEL047-351-4464 FAX047-355-1004 Email: saints@js9.so-net.ne.jp
ホームページ http://members3.jcom.home.ne.jp/wjf/
発行人 代表・外山喜雄 編集長・山口義憲 編集・小泉良夫

緊急例会

4.30 ユネスコ国際ジャズ・デー参加コンサート

世界を廻った音楽大使サッチモ

映像とトークとライブセッション

――外山喜雄・恵子夫妻の国家戦略大臣表彰記念――

4月30日、 渋谷区文化総合センター大和田「伝承ホール」 にて開催

昨年9月、当時の内閣官房国家戦略大臣から「『国境を越えた』情熱を持って頑張る日本人」として感謝状を贈られた外山喜雄・恵子夫妻を祝福するとともに、「ユネスコ国際ジャズ・デー」にあたる4月30日、“国と国を結ぶジャズ”をテーマに、音楽大使として世界を廻ったサッチモの映像（日本語字幕付き）が上映される。また1967年、日本人として初めてニューポート・ジャズ・フェスティバルに出演した日本ジャズ界の大先輩、原信夫さんをはじめ、世界に活躍するゲストを招き、映像とトークとライブセッションをお楽しみいただく。慌ただしく決まったWJFの緊急例会。まずは、その“予告編”をお届けします。

ゲスト： 原信夫さん
瀬川昌久さん(ジャズ評論家)ほか
ホストバンド： 外山喜雄とデキシーセインツ
司会： 中川ヨウさん（慶応義塾大学特任准教授）

お祝いする会 代表発起人：
石井 一さん（参議院議員）
中村 宏さん（ジャズ評論家、医学博士）
佐藤 修さん（元ポニーキャニオン社長）

「ユネスコ国際ジャズ・デー」とは

(UNESCO’s International Jazz Day)

昨年2012年4月、ユネスコの親善大使、ハービー・ハンコックとセロニアス・モンク・インスティチュート・オブ・ジャズ(TMIJ)が音頭をとって、パリのユネスコ本部とニューヨークの国連本部、そしてニューオリンズの象徴的なコンゴ広場のメーン会場に、ジャズの伝説的な人物を集め、世界中で歴史的なイベントを開催することになった。

ユネスコの理念を持ち、“世界共通の言語”でもあるジャズ、教育手段として、また平和と団結、対話、そして人々の連携を強めるための手段としても、ジャズの素晴らしさを国際社会に知ってもらおうという趣旨。

2回目の今年は、トルコのイスタンブールがオフィシャル・ホスト・シティーとなった。今年は特に「アフリカの伝統を受け継いだ人たちへの感謝とその発展のために」というテーマも掲げられ、アフリカ系の人たちのための「国際的な活動を進める10年間」の最初の年としても位置づけられた。

まだ人種差別が厳しかった1930年代に、ワシントンの駐米トルコ大使は、アフリカ系ミュージシャンのために大使館を開放していた。また大使の2人のご子息は、初めてのジャズ・レーベル「アトランティック・レコード」を起こしている。ジャズの素晴らしさを世界中に広めていったトルコの貢献もあって、イスタンブールが今年のホスト都市になった。

また、「銃に代えて楽器を！」をスローガンに“国境を越えた情熱を傾けてジャズの素晴らしさを伝え、慈善活動を続けている外山喜雄・恵子夫妻を詳細に取材し、次号のトップに扱うことにしている米のWEB マガジン『504』誌の働きかけもあって、日本のこのイベントが国際ジャズ・デーの一環としてユネスコにも認められた。ユネスコのHPには、フランス、ドイツ、ギリシャ、ハンガリー、イタリアの次に日本！としてその概要が紹介されている。

「スウィング・ドルフィンズ」の渡米決定！日程も順調に詰められています（14面）

サッチモのいたずら！？ 慌ただしく決定！

このユネスコ国際ジャズ・デーに供応する“緊急例会”は、米の WEB マガジン『504』が、次号で外山さんを表紙にもフィーチャーし、夫妻をトップに扱うという企画が進むうちに、クローズアップされてきた。4月30日というこのイベントの開催日が、直前に迫っていて、どこの開場も予約といえば、「6ヵ月前、抽選」というのが“常識”だった。

それにしても、このイベントこそ外山夫妻も、WJF としても、願ってもない、ぴったりの企画だった。外山夫妻は、二つ返事でGOサインを出した。会場探しも、困難を極めたが、代表発起人の一人でもある中村宏さんのご指示もあって、外山夫妻が確認したところ、なんと“奇跡的” に、この渋谷区文化総合センター大和田「伝承ホール」の予約が取れた。外山夫妻は即刻、車を飛ばして契約し、開催が現実のものとなった。

「伝承ホール」という会場の名前は、まさにニューオリンズ・ジャズを“伝承”している夫妻にぴったりの会場。それに「大和田」って恵子夫人の旧姓。これもサッチモのいたずら！？ にっこり笑って「オー、イエー！」といっているサッチモの姿が目に浮かぶ。

ユネスコのホームページにも、この概要が紹介されているように、今度の日本のイベントでは、“アンバサダー・サッチ”として世界を廻ったルイ・アームストロングのドキュメンタリー映像『サッチモ・ザ・グレート』(邦題:『サッチモは世界を廻る』)の映像に始まって、1967年、日本人として初めてニューポート・ジャズ・フェスティバルに参加した日本のトップバンド「原信夫とシャープス・アンド・フラッツ」のリーダー、原信夫さんその人の参加も伝えられている。

当日、ゲストとしてお招きしている原さんのトークが、何よりの楽しみ。それに、このニューポート・フェスティバルに参加したメンバーの中に、なんと現セインツのメンバー、若き日の鈴木孝二さんも加わっていたのです。当日、孝二さんにもぜひ、お話を伺いたいですね。

それればかりではありません。このコンサートに当時、ニューヨークで病院勤務をされていた中村宏さんや同じように日銀のニューヨーク支店勤務をされていた大のジャズファン、瀬川昌久さん(ジャズ評論家、日本ポピュラー音楽協会代表理事)も駆けつけていたのです。その方々が一堂に会して当時のジャズ界を振り返ります。この日のトークがますます楽しくなってきそうです。

原信夫(シャープス＆フラッツのリーダー)

花岡詠二(cl) 中川喜弘(tp) 下間哲(tp) 瀬川昌久(ゲスト)
筒井政明(tp) 薗田勉慶(tb) 広津誠(cl,ts) 中川ヨウ(司会)

外山喜雄とデキシーセインツ 外山喜雄・恵子 サバオ
渡辺(ds) 粉川忠範(tb) 鈴木孝二(cl) 藤崎羊一(b)

映画『サッチモは世界を廻る』(Satchmo the Great)について

1956年9月末、ルイ・アームストロングとオールスターズは、スイス、ドイツ、ベルギー、スウェーデン、フランス、イタリア、そして、はじめてのスペインも入れて、10カ国を廻る3ヵ月間のヨーロッパ・ツアーに出発した。

当時コロムビア・レコードの名プロデューサーだったジョージ・アヴァキアンは、その全ライブをレコーディングする企画を進めていた。CBS ニュース・キャスターのエドワード・R・マローは、テレビ番組『シー・イット・ナウ』の映像をとるため、バンドに密着することになった。それがこの映画である。

映像は、マローの語り、「西暦紀元前218年、ハンニバル(地中海に面した古代国家、カルタゴの将軍)は37頭の象と12,000頭の騎馬を率いてアルプスを越えた。ルイ・アームストロングは20世紀半ば、トランペットを抱え、5人の演奏家を率いて同じアルプスを越えたのである」に始まる。『南部の夕暮れ』がバックに流れる。

マローは、ルイにインタビューし、このツアーでのエピソード、ニューオリンズ時代の思い出、ジャズ葬式、サッチモの愛称、「キャット」の意味など、あれこれユーモラスに語ってもらっている。

サッチモは、1956年5月、曾祖父母の出生地と信じているガーナにも廻った。空港で盛大な出迎えを受け、当時のエンクルマ首相の前でも演奏する。ガーナでのコンサートには10万人もの聴衆が押し寄せたという。

映画の最後は、サッチモのもう一つの夢、ニューヨークのルイソーン・スタジアムで行われた有名なグーゲンハイム・コンサートで、若きレナード・バーンスタインが指揮するニューヨーク・フィルハーモニックの88人とともに、『セイント・ルイス・ブルース』を演奏した映像。2万5千人の聴衆の中には、83歳になる、盲目となったこの曲の作曲者、W・C・ハンディの姿もあった。演奏を聴き、涙ぐむハンディ…。

バーンスタインは聴衆に向かって、こう語りかけた。「私たちが演奏する『セイント・ルイス・ブルース』は、彼の演奏をまねてやったものに過ぎません。彼の演奏こそ、真実に満ち、誠実でシンプルなもので、気高ささえあると思います。彼がトランペットを唇に当てた時、たとえ練習のためであっても、そこに魂が打込まれているのです。彼こそ音楽にすべてを捧げた人物であり、私たちこそ、共演できたことを光栄に思っているのです」。

ジャズが以前にも増して記者たちの目にもとまり、『ニューヨーク・タイムズ』紙は、「アメリカの秘密兵器は、マイナー・キーの中のブルー・ノートである」と書いた。「いまや、その最も効果的な大使はルイ・(サッチモ)・アームストロングである」と。この映画は、そんな「音楽大使」としてのサッチモの姿を追った迫真のドキュメンタリーである。

オバマ大統領、B.B.キングとブルース『スイート・ホーム・シカゴ』を歌う

あのトロンボーン・ショーティーも招かれ熱演

ホワイトハウスからのサプライズ・ショットに外山夫妻も「やった～っ！」

この写真を見て、外山夫妻は、思わず大声を上げた。この写真**（ホワイトハウス撮影）**は、昨年2月21日、ホワイトハウスのイースト・ルームで開催された「Blues from The White House」での一コマ。コンサートも終わりに近づいて、出演者全員がステージに出てアンサンブルに入った。バラク・オバマ大統領がやおら立ち上がると、ブルースの巨匠、B.B.キング**（上の写真の右手前）**がさっとマイクを差し出す。なんと大統領はこれを受け取って、ブルースを歌いだした。それもそのはず流れた曲は、オバマさんの出身地シカゴにちなんだ『スイート・ホーム・シカゴ』だった。

そのことよりも何より、外山夫妻を驚かせたのは、写真中央でトロンボーンをもって微笑んでいる青年が、なんと、なんと！　かつて WJF からトロンボーンを贈ったこともあり、以来、少なからぬ縁で結ばれている、あのトロンボーン・ショーティーだったからだ。

PBS の YouTube にも、はっきりと映し出されているように、トロンボーン・ショーティーは客席の後ろからトロンボーンを吹きながら現れて、ステージに上り、歌も交えて『セント・ジェームズ病院』を演奏した。外山さんと同じように♪ハイデ・ハイデ・ハイデ・ホー…と歌い、大統領夫妻も唱和しているところが、はっきりとらえられている。**（左の3枚の写真＝PBS の YouTube 映像から）**

ネットなどの報道によると、彼はブルースをたたえるこのホワイトハウスのイベントに出演、B. B. キング、ミック・ジャガー、ジェフ・ベック、バディ・ガイ、

ゲイリー・クラーク・ジュニア、ケブ・モら大スターに混じって出演していた。

彼は、サッチモの銅像が建つニューオリンズのルイ・アームストロング公園（かつては奴隷たちが集い、民族音楽に興じたコンゴ広場）、その裏手のトレメ地区と呼ばれている犯罪も多い地域の出身。夫妻と行く「サッチモの旅」でも毎年、みなさんと「ジャズ・ミサ」で訪れているセント・オーガスチン教会もこの地区にある。

ルイ・アームストロング公園のサッチモの銅像前で外山さんと演奏するトロンボーン・ショーティー（左端）**。右端はコロムビアの名プロデューサーだったジョージ・アヴァキアンさん**＝2003年撮影

彼は1989年、3歳でお兄さんのジェイムス（トランペッターで、今もゲットーのサッチモと呼ばれて活躍中）についてきて、バーボンストリートでチップを集めていた。たまたま通りかかった外山さんが撮ったのが**右の2枚の写真。**これでもお分かりのように、トロンボーの方が彼より背が高いので、“ショーティー”と呼ばれた。後になって、この子が“ちびっ子ショーティー”だったのだと判明した。本名はトロイ・アンドルース。ステージネームとして、いまも“トロンボーン・ショーティー”を名乗っている。

2001年、まだ中学生で、すでに天才的才能を持ったミュージシャンに成長していたショーティーに外山夫妻は再会する。その際、彼は夫妻がニューオリンズに楽器を贈っていることを知っていて「ヤマハの GOOD トロンボーンがほしいんです」と懇願した。夫妻は帰国後、当時日本楽器勤務だった早大ニューオリ OB の東条一幸さんにお願いして、神田の下倉楽器、井能裕晃部長を紹介しもらった。お世話いただいた楽器は YAMAHA トロンボーン YSL455G 。間もなく、日本通運に託して送っていただいた楽器を手に、目を輝かせるショーティーの写真が送られてきた。

その半年後、ジャズツアーで渡米した夫妻は、高校生になってニューオリンズのアートスクール「ＮＯＣＣＡ」（New Orleans Center for Creative Arts＝ニューオリンズ・センター・フォー・クリエイティブ・アーツ）」に通い始めたショーティーにトランペット2本もプレゼントしている。彼は、トランペットも超一流！　このトランペットのうち1点は、セインツのトロンボーン奏者、粉川忠範さんのお知り合いの和尚さんからいただいたポケット・トランペットだった。

そのショーティーが、今27歳（1986年1月2日生まれ）、全米の注目を集めるスターとなって、大統領の前で“御前演奏”をしたのだから夫妻が驚いたのも不思議ではない。

写真上は、**トロンボーン・ショーティー**（左から2人目）**に粉川さん**（左端）**の知人から贈られたトランペット他を手渡す外山夫妻**（右）＝2001年9月。右は、**まだ中学生だった彼にトロンボーンを進呈。ケースにはWJFのロゴが…**＝2001年

Troy Andrews (born January 2, 1986), also known by the stage name **Trombone Shorty** is a trombone and trumpet player from New Orleans, Louisiana, United States. He has worked in jazz, funk and rap music. Andrews is the younger brother of trumpeter and bandleader James Andrews as well as the grandson of singer and songwriter Jessie Hill. Andrews began playing trombone at age six, and since 2009 has toured with his own band, Trombone Shorty & Orleans Avenue.(**Wikipedia** から)

音楽、芸術など文化教育にも力を入れるバラク・オバマ大統領

「私はジャズで育った」ーミシェル夫人もジャズを大絶賛

「ジャズはアメリカが世界にプレゼントした素晴らしい贈り物」

2009年1月、アフリカ系アメリカ人として初めて米大統領に就任したバラク・オバマ氏は、音楽や芸術など文化教育にも力を入れている。就任から半年後の6月15日、ホワイトハウスのイースト・ルームにジャズを学ぶ青少年たちを招いたコンサート、ミュージック・シリーズ「ジャズ・スタジオ」がミシェル・オバマ夫人（大統領芸術人文委員会の名誉会長）の主催で開催されている。ミシェル夫人が熱心にこのプログラムを支えていることは、この日の次のような彼女の挨拶にも象徴される。

（画像は、その模様を伝えるホワイトハウスHPの映像から）

ジャズは民主主義の最高のお手本！

「アフリカ系アメリカ人によってニューオリンズで100年前に生まれたジャズは今日、すべての民族、年齢、宗教を超えて演奏され、聴かれています。アメリカの生んだ音楽として世界中で認められているのです。ジャズは、アメリカが世界にプレゼントした素晴らしい芸術的な贈り物として認められています。ジャズを理解し、ジャズに感謝することは、アメリカの歴史と文化を理解し、正しく評価するために欠くことができないことです。それはまた同様に、個々の表現、民主的な表現としても、優れたモデルでもあります。

そして、グループの中で演奏者それぞれが責任を果たしながら、個々が自由に表現をしていくというジャズのアンサンブル…それよりも、より優れた民主主義の実例などはおそらくないでしょう。アメリカ中のすべての学校で、このジャズ教育プログラムの重要性を認め、高めていくことで、私達の次代を担う世代のために、私達がこの芸術的な形態を保存し、発展させ、広めていくことはとても重要なことなのです。

各地から今日ここにいらした新進の若いジャズ・ミュージシャン、あなた方の若い才能は、この音楽の次代を担う世代なのです。私達はあなた方、そしてあなた方の先生たちに敬意を表します。私達は、来るべき世代のために、あなた方がこの音楽を生き生きと保ち、発展させていくことに期待しています。

そして、ジャズは、100年以上もの間、毎晩のようの実演されてきていますので、私達が一緒にやっていく限り、私達に不可能なことなどありません。

ジャズは、まだ私が小さい女の子だったときからずっと私の生活の一部だったのです。私達が「シカゴのサウス・サイド(South Side)の人」とよんでいる母の父親は、彼の家のなかのすべての部屋にスピーカーをつけて、一日中ジャズをかけていたのです。それもできる限り最大限の音量で、です。私はそんな家庭で育ちました。クリスマスであろうと、誕生日、イースターであろうと、お構いなしでした。私の家庭では、いつもジャズが流れていました。そんなこともあって、その音楽をここ、ホワイトハウスに持って来て、皆さんと一緒にそれを祝福するこがくることが出来たという訳です」（要旨）

このミュージック・シリーズは、2009年のジャズに始まり、カントリー、クラシック、ラテンと続けられてきた。

新春恒例の「デキシーランドジャズジャンボリー」華やかに開催

新機軸！各セクションの演奏者が揃って“サミット演奏”

課題曲は『What A Friend We Have In Jesus（いつくしみ深き）』

新春恒例の「デキシーランドジャズジャンボリー」が今年も、新年早々の1月12日、東京・千代田区日比谷公園の日比谷公会堂で華々しく公開された。早いもので今年は、2009年にスタートして以来、すでに5回目になる。1回目は、大のデキシー・ファンで、まだがんの手術をした直後だった、故立川談志師匠が来られて、ステージでエールを送ってくれたのが印象深い。今年は主催も、日本音楽家協会を引き継いだ一般財団法人「日本ポピュラー音楽協会（JPMA）」（代表理事・瀬川昌久）に受け継がれ、新しいスタートを切った。瀬川さんの挨拶にもありましたが、「デキシーは、ますます元気」なんですよ。　**（小泉良夫）**

“サッチモ・コースター”が大受け！ 会場入り口で入場者にプレゼント

実は、このイベント、我々WJF にとっても、大変な PR のチャンスで午前11時、スタッフの肥塚重雄さん共々、この日のプログラム約1300にWJF の新しい会報を挟み込む仕事に出ていた。ほかにも、挟み込むチラシが10種類もあって、2時間ほどの仕事、そりゃあもう、主催者みなさんともども大仕事。いつも音楽祭の入り口でいただくチラシ類の楽屋裏には、こんな苦労があったんですね。

午後2時15分開場。肥塚さんと今度は入り口で、WJF 特製「サッチモ・コースター」**（写真上中央）**を配布したんですが、ええ！？こんなにお客さんがいらしたの？…というほどの大賑わい。2人ではとても配りきれませんでした。なかには、「オー、これはいい」「わー、素敵！」なんて言ってくれるファンもいて、2枚、3枚…とあげてしまったが、「すまん、5枚くれ！」なあんていう方もいらして、これは大好評。肥塚さんによる物販コーナーも、ロビーに例年通り設けました。

（写真上から）**クラリネット、バンジョー、トランペットの各サミット**

午後3時開演。挨拶に立った瀬川さん**（写真左）**が、外山ご夫妻の奔走で実現した昨年秋の「日米ジャズ交流」に触れ、デキシーランドジャズの際だった元気良さを紹介、会場のファンから支援の拍手をいっぱいいただいた。今年は、この続きの大イベントとして、東日本大震災の被災地バンド、気仙沼ジュニアジャズオーケストラ「スウィング・ドルフィンズ」がニューオリンズに招待されることも、いよいよ本決まりとなってきました**（14面）**。

出演バンドは、登場順に有馬靖彦とデキシージャイブ（ここには WJF にもお馴染みのトランペッター、下間哲さんが加わっている）、次いでデキシーキャッスル（ドラムスには、セインツともしばしば共演している山本勇さん。若手の素晴らしいバンジョー奏者、青木研さんがリーダー）、中川喜弘とデキシーサミット（ピアノの後藤千香さんのソロ「日本の四季」のメロディーも素晴らしかった）、ご次男のトロンボーン奏者、英二郎さんが飛び入り出演したのも際だった。そして我らが外山喜雄とデキシーセインツ、さらに、薗田憲一とデキシーキングス（上達めざましいトロンボーンの勉慶さん）と続いた。

昨年の「日米ジャズ」交流を披露 会場の惜しみない拍手をいただく

今年の課題曲『What A Friend We Have In Jesus(いつくしみ深き)』…そう、どなたでもご存じの賛美歌♪いつくしみ深き友なるエスは…です。これをそれぞれのバンドが、それぞれの解釈で素晴らしい演奏を聴かせてくれました。セインツは、ニューオリンズのジャズ葬を彷彿させるセカンドラインを組み込んで演奏。宗教を越えて、これらの演奏にはみなさん感動されたに違いない。

もう一つ、今年の新機軸は、各バンドの演奏時に各セクションの演奏者全員が揃って“サミット演奏”したこと。

クラリネット・サミットに始まって、バンジョー・サミット、トランペット・サミット、チューバ・サミット、トロンボーン・サミット…と続いたのでした。これも素晴らしいアンサンブルでしたね。

（写真上から）**チューバ、トロンボーン、ドラムスの各サミット**

さて、セインツです。外山さんが、昨年10月、ハリケーン・カトリーナの被災地ニューオリンズからやってきた（被災してWJF が支援してきた）高校生や若手のブラスバンド、ジャズバンドが宮城県の被災地をともに巡回、東北被災各地のジュニアバンドと共演した「日米ジャズ交流」を改めて紹介し、聴衆のみなさんの惜しみない拍手をいただく。

セインツの演奏は、まず恵子さんのバンジョーの演奏も交えた夫妻の合唱『アイスクリーム』**（写真右）**。ジャズひな祭りなどで恵子さんが熱唱するこの曲は、本当に微笑ましくて私は大好き。ついで恵子さんのバンジョーと鈴木孝二さんのクラでしっとりと聴かせる賛美歌『リード・ミー・セイヴィア』、さらに『ウエスト・エンド・ブルース』『スウィングしなけりゃ意味がない』『チャイナタウン・マイ・チャイナタウン』…と続いた。この日の出演は、外山夫妻、鈴木孝二、粉川忠範、藤崎羊一、サバオ渡辺に加えて、広津誠(cl,ts)**（写真下）**。

トリのデキシーキングスには、クラリネットの大御所、北村英治さんも出演した。司会者の話で初めて知ったが、

北村さんは、昨年のサマー・ジャズのあとに肺炎で、危うく…でも、すっかり良くなって、この日の出演、喝采を浴びて、『懐かしのニューオリンズ』を演奏する**（写真左）**。北村さんは、この会場となった日比谷公会堂が建設された昭和4年生まれとか。ということは、今年８４歳ですよ！　まだまだ、この心地よいクラリネット・サウンドを聴かせて下さいね。

5年前の第1回の公演には、この北村さんはもとより、大のデキシー・ファンという故立川談志師匠も見えて「俺さあ、がんになっちゃってよォ、でもさあ…」とか、けろっとして告白、あっけらかんとしてこの日の公演にステージから声援を送ってくれた**（写真右上の下段）**。この日は、談志師匠のご子息も客席に見えていて、紹介された。

フィナーレは故立川談志師匠に捧げ『That’s A Plenty』の豪華ドラム合戦も

フィナーレは、出演者が全員ステージに集合。立川談志師匠に捧げる『That’s A Plenty』…各バンドのドラマーによる壮大なドラムソロが続く。そして、中川喜弘さんが、

「この日のために用意してきたんですよ」と言って、この日の入場の際にみなさんに配っていた『私の青空』の日本語歌詞を、会場全員で大合唱した。これはもう当分、私の頭の中に残って毎日、鼻歌で繰り返されているんですよ。最後は、やはり全バンドの『聖者の行進』が会場をくまなく回る**（写真上の下段）**…こうして2013年は、デキシーでつつがなく幕をあけたのでした。

日本・アームストロング協会（WJF）懇親クリスマスパーティー

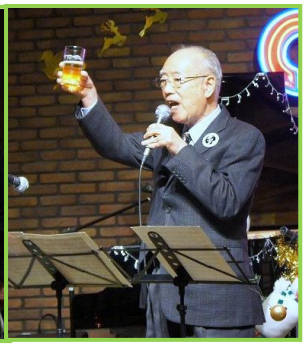
夢の「日米ジャズ交流」も実現した2012年

サー・チャールス・トンプソンさん、94歳！もセインツと珠玉の演奏

いろいろあった2012年の最後を飾って、昨年12月23日（日・祝＝天皇誕生日）、今年も「日本ルイ・アームストロング協会(WJF)懇親クリスマスパーティー」が千葉・浦安市のオリエンタルホテル東京ベイB1F「HUB新浦安店」で開催された。今回も、“伝説のピアニスト”サー・チャールス・トンプソン夫妻が晴れやかに姿を見せ、セインツとともにクリスマスソングや特上のスタンダードナンバーをたっぷりと聴かせてくれた。　（小泉良夫）

1時間延長しての各種飲み放題！ お寿司もデザートも余ってしまった

今年も午後0時半開場で「サッチモの旅」の同窓生やWJF 会員のあの顔この顔…ご家族を誘って約120人が参加。挨拶を交わしながらにこやかに席に着き、ドリンクがスタート。今年は午後4時まで延長の各種飲み放題特典付き。お寿司などの食事やつまみ、さらに“ジャズの街”宇都宮の会員、関口美夫さんから今年もまたどっさりとリンゴが送られ、外山家で皮むきしたものやらキウイ、ブドウ…とデザートまでいっぱい、何かずいぶんと残ってしまったみたい。



午後1時、外山喜雄・恵子夫妻と司会の山口義憲さん(WJF 会報「ワンダフルワールド通信」編集長)が、開会の挨拶**（写真上の左）**。次いでこの度の「日米ジャズ交流イベント」を夫妻が総括。共催した国際交流基金（JAPAN FOUNDATION）が終始密着して撮影したビデオ**（写真右上）**も、会場の周囲に設置されたディスプレイに写し出された。夫妻は「本当に夢が実現しました。これもみなさんとの絆によって実現したということを強く感じました」と。会場には、お世話になったその国際交流基金・米州チームの篠原由香里さんもいらしてパーティーを満喫されていた。

この素晴らしい映像は、国際交流基金撮影「宮城-ニューオリンズ青少年ジャズ交流」として YouTube で流されている**（URL は下記）**。映像は鮮明で素晴らしく、何度見ても感動的です

http://www.youtube.com/watch?v=6LRoUh7fjPE&list=UUWNkrzmC1XpWFCDBDs2dShA&ind

Dr.jazz中村宏さん(防衛医大名誉教授、ジャズ評論家)が例年通り乾杯に立ち**（写真左）**、昨年新春早々の「千葉市で巡るマエストロの旅」以来、続いた「サッチモの旅」、日米ジャズ交流、サッチモ祭…と外山夫妻の活動を伝えるとともに、9月の政府・国家戦略室からの“感謝状手交”に触れ、「年が明けたら、ご夫妻のために祝賀会を開きたい」と提案された。

クリスマスソングで軽快に幕開け スタンダードナンバーもたっぷりと

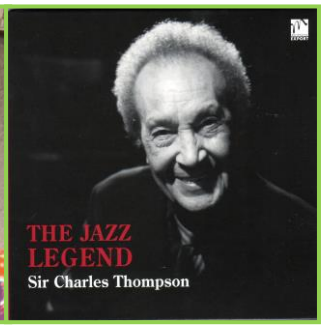
さっそく食事のスタートとともに Santa セインツが『南部の

夕暮れ』で演奏開始。『諸人こぞりて』や『ハロー・ドーリー！』『ジングルベル』…クリスマスソングに続いて、サー・チャールスがゆっくりとステージに上がる。何度も書いているが、彼は1918年（大正8年）3月21日生まれで、年が明ければ、（この会報発行時には）すでに94歳！！マキコ夫人が曲名とコードを書き込んだ紙を譜面台に載せると、まるで鼻歌を歌うように軽やかに弾き出す。『パディード』『ロシアの子守歌』『ムードインディゴ』『君微笑めば』（ここではヴォーカルまで披露）、『いい娘を見つけた』『マギー』『ロビンズ・ネスト』、さらには『サテンドール』『この素晴らしき世界』『スイングし泣けりゃ意味がない』『メモリーズ・オブ・ユー』など、次から次とセインツとともに素晴らしい演奏をたっぷり聴かせてくれた。

ピアノのステージ脇でマキコ夫人が、彼の最新のスタンダード集CDアルバム『ザ・ジャズ・レジェンド／サー・チャールス・トンプソン』(MMEX-155-CD)を並べていた**（写真下段）**。このCDは限定999枚でシリアル番号入り。1枚2800円。演奏が終わり、しばし歓談となると、みなさん、そこでサインしてもらったり、ツー・ショット撮影までしてもらったりして（かくいう私も＝シリアル番号564をゲット）、結構多くの方々が手を伸ばしていた。“家宝”がまた増えました！

セインツをバックに腕自慢・のど自慢
お馴染みの面々が次々と飛び入り！

「飛び入りコーナー」に入ります。みなさんお馴染みの出場者。いずれの演奏にも、セインツがバックに入るから、もうやめられないのです。トップは佐宗雅幸（tp）・府川弥生（p）コンビによる『サニー・サイド・オブ・ザ・ストリート』①。ついで渋井誠さん（hca）の『テネシー・ワルツ』②、松本隆一さん（vo）の『セ・シ・ボン』③、中村亜海さん（vo）の『マイ・ブルー・ヘヴン』④、鈴木芳郎（tp）・栗生清貴（ds）・山口義憲（bj）トリオの『ビル・ベイリー』⑤、石井修さん（vo）の『アイ・キャント・ギブ・ユー・エニシング・バット・ラブ』⑥、そして伊藤咲子さん（vo, ts）の『アワ・ラブ・イズ・ヒア・トゥ・ステイ』⑦で締めくくり。



続く「お楽しみ抽選会＆じゃんけん大会」に入る前に、例年のように会員の水越有造さんから箱いっぱいにプレ

ゼントされた「サッチモ金太郎飴」がスタッフの手で会場のみなさんに配られた。うん、だんだんサッチモに似てきましたよ。

水越有造さん、中村亜海さん、笠原克信さん＝左から

抽選会には、会員の奥山康夫さん提供のディズニー・グッズ、奥村清文理事からのマグネット、サッチモの少年時代を活写した『はばたけ、ルイ！』の翻訳家、若林千鶴さんから同著作、さらには、WJFからアメリカ大使館からの「TOMODACHI」の T シャツ、ティピティナス財団とオー・ペリー・ウォーカー高校ヤングバンドの来日を記念した日米国旗入りの T シャツ、各種サッチモグッズ…プレゼントも盛りだくさん。山口さん、恵子さん、咲子さんがステージで大奮闘(**写真上**)。

若林さん(左)**の翻訳本があたってサインしてもらう多田さん**

フィナーレはクリスマスソングやら『セカンドライン』の演奏が続き、ステージを下りたバンドが、定番『聖者の行進』で会場を回るパレード。大喜びで傘を持った子供たちも続く。

いろいろお世話になった国際交流基金の篠原さん(写真左)**もセカンドラインに参加してにっこり**

中締めは、磯野博子さん(ジャズ評論家、故いソノてルヲ氏夫人)と、佐藤修さん(ポニーキャニオン元社長、サッチモ・コレクター)の三三七拍子(**写真右上**)。瞬く間の3時間超でした。

みなさん、1年間、ご支援ありがとうございました。お陰様で、夢のような「日米ジャズ交流」が実現し、気仙沼の「スウィング・ドルフィンズ」の訪米も決まってスケジュールが詰められています(**14面**)。引き続きご支援を！！

今年のセインツのメンバーは、外山喜雄(tp,vo)・恵子(p,bj)、鈴木孝二(cl)、粉川忠範(tb)、藤崎羊一(b)、サバオ渡辺(ds)のみなさんでした。

なんと！このＸマスは14回目でした

ところでこの WJF 懇親クリスマスパーティー、いったいいつごろから始まったと思います？

数年前からかなあ？といった感じですが、調べてみると、第1回はなんと！“前世紀”――1999年12月23日でした。

第18回例会としての「ミレニアム・クリスマスパーティー」が、同じくこのHUB新浦安店で開催されています。

つまり13年も前、今回は14回目だったのです。にもかかわらず、みなさん、当時と変わらず若さを保っていらっしゃる。ジャズこそ若さの秘訣…！？

それはすべて千葉・浦安の『とんかつ双葉』から始まった

あの日、外山夫妻と“サッチモとジャズの夢”を語り合う

外山夫妻の国家戦略大臣表彰、その記念祝賀コンサート、この夏の「スウィング・ドルフィンズ」渡米企画…課題山積みの WJF、その一つ一つをクリアすべく WJF 理事会が2月9日、千葉・浦安市のレストラン『とんかつ双葉』で開催されました**(写真)**。そのお店は、何と…。 **（山口義憲）**

20年前、外山喜雄・恵子夫妻と私が、とんかつ（地元では美味で有名）とビールをいただきながら、ジャズの夢を語りあった浦安にあるそのお店が、ここ『とんかつ双葉』だったのです。

1965年、私は早稲田大学に入学し、ニューオルリンズ・ジャズクラブに入部、その時、4年生だった外山喜雄先輩はサッチモのホットファイブ・セブンを見事に演奏していて、尊敬と憧れの眼差しで仰ぎ見ておりました。

クラブの OB 会では、美人で、ピアノが素敵で、英語が上手な恵子先輩（旧姓大和田さん）が微笑んでいらしたのが眩しかったのです。

そのお二人が結婚し、ニューオリンズにお住まいと知ったとき、アメリカに行こうと決め、1971年6月にニューオリンズに入り、ご夫妻と同じアパートの上の階に約2週間滞在、夕食はご夫妻と一緒にいただき、プリザベーション・ホールへは毎晩通い、昼はチューレイン大学のジャズ・アーカイブに入り浸るという夢のような青春の日々でありました。

帰国後、私も結婚し子どもが小学校に入る時に浦安に引っ越しました。浦安には東京ディズニーランドがオープンし、外山夫妻も浦安の住人となり、折につけお会いしてお話しをさせていただいておりました。

そして20年前。浦安にある『とんかつ双葉』で、外山喜雄・恵子夫妻と私は、とんかつとビールをいただきながら、外山さんの語る夢、ルイ・アームストロングに関わることを全部／演奏、ジャズフィルムの収集・公開、ジャズ文献の翻訳、DJ、サッチモのエバンジュリスト、アメリカへの恩返し、恵まれないニューオリンズの子どもたちに楽器をプレゼント・・・・それまで断片的だった夢がひとつの形を作りだしたのでした。

「サッチモの協会を作ろう！」

1994年9月、現在の日本ルイ・アームストロング協会の前身、ルイ・アームストロング・ファウンデーション・ジャパンが発足し、1997年に日本ルイ・アームストロング協会（ワンダフルワールド・ジャズ・ファウンデーション＝WJF）が設立されました。その後の WJF の活動はみなさまご存じのとおりですが、2005年の外務大臣表彰および昨年の国家戦略大臣表彰受章、昨年秋にはニューオリンズの高校生バンドの来日実現、東北被災地の子どもバンドとのジャズ交流などは胸が熱くなる出来事でした。

長いようで短い20年間でしたが、その間に成し遂げられた沢山の事柄は、ルイ・アームストロングから「ヨシオ・ケイコ、ホワット・ア・ワンダフル・シングズ」と言われることでしょう。

国際交流基金HPに、昨年10月のジャズ交流の動画が掲載されました。

宮城－ニューオリンズ青少年ジャズ交流

ハリケーン被害で日本から楽器寄贈を受けたニューオリンズの高校生 JAZZ バンド
宮城県の被災地で子供達と共演

国際交流基金（ジャパンファウンデーション）は、日本ルイ・アームストロング協会、ティピティナス財団との共催で、10月5日～15日、米国ルイジアナ州ニューオリンズから高校生を中心とする JAZZ バンドを招待し、石巻、気仙沼、多賀城の子供達と共演する「宮城-ニューオリンズ青少年ジャズ交流」を実施しました。**（下記 URL にその動画）**
http://www.youtube.com/watch?v=6LRoUh7fjPE&list=UUWNkrzmC1XpWFCDBDs2dShA&ind

慶応義塾大学のアート・センター油井正一アーカイヴへ

運び込まれたジャズの貴重な資料は段ボールに 50 箱！

専属アーキヴィストが整理してデジタル化、将来はネット検索も可能に

桜が満開の3月23日（土）、昼下がり、慶応義塾大学のアートセンター油井正一アーカイヴでの見学会に参加してきました。

どのような資料が、どのように整理されて、どれくらいの量があるか知りたかったのです。

約2時間、中川ヨウ先生(同大学特任准教授)の案内と専属アーキヴィストの詳しい講義と説明があり、中村宏先生ご夫妻はじめ、40人近い参加者が熱心に耳を傾けていました。

印刷が出来上がったばかりの4月30日の WJF イベント案内チラシがカラーコピーされて、参加者に配布されていました。

油井正一さんの資料は、ジャズ評論に関する独自の手書きのノートや LP レコード、各コンサートのパンフレット、ポスター、録音テープなど貴重なものばかりで、ダンボール50箱！と、油井さんのご子息が仰っていました。

専属アーキヴィストが細かく分野別に整理して、音や色が変わらないようにデジタル化、将来はネットで検索できるようにもしたいそうです。

細かく分類され、整理されている光景には、頭が下がりました。

事前に申し込むと見学が出来るようです。

棚（高さ2メートル、幅5メートル）ぐらいのボリュームでした。

8年前にご遺族から寄贈され、約2年前に公開にたどり着いたようです。

世にある博物館や美術館は完成品を保管、アーカイヴは制作過程に関わる資料等を保管するところ…というのが大まかな分類だそうです。

公立美術館は全国に約3000館、アーカイヴは57ヵ所。まだまだ制度が整備されてないので、資金的にも大変だそうです。

中川先生もジャズ関連のアーカイヴを設立したく、何かお知恵を拝借したいよう、要望しておられました。

各人が所有している貴重なレコードや図書類を受け取るところはありますが、不要なものは勝手に処分されてしまうようです。

文化庁や大学などの文化機関に働き掛けていきたいそうです。

一度、学識経験者や WJF 理事、ジャズ評論家、ジャズマンが一同に集って議論するのも一策ですね。　**（奥村清文）**

▼ 油井正一アーカイヴ　利用方法

■ 開室日

常時開室：毎週月曜日（祝祭日除く）　12:30～17:00

その他の曜日についても、アーキヴィストの予定によりますが、閲覧可能ですので、お問い合わせください。

■ 閲覧申し込み方法

資料の閲覧希望される場合、1 週間前までにご予約をお願いいたします（予約なしの訪問は受け付けておりません）。

ご予約される際には、予約希望日と、閲覧を希望する資料をご指定ください。

他の予約状況、資料の状態を確認後、アーカイヴ・スタッフが折り返しご連絡いたします。

【申し込み先】

電話：慶應義塾大学アート・センター（油井アーカイヴ担当：本間）　03-5427-1621

Email：メールフォーム（http://www.art-c.keio.ac.jp/archive-contact.html）をご利用ください

■ 閲覧を希望する資料の指定方法

アート・センターのウェブサイトで、「資料目録システム」を閲覧することができます。

資料目録システムから、「油井正一文書」を選び、キーワードを入力して検索してください。

資料の形態（文書、印刷物など）が特定されている場合、該当するリンクをクリックして閲覧してください。

・資料目録システム： http://www.art-c.keio.ac.jp/fa/

・油井正一文書 資料目録：http://www.art-c.keio.ac.jp/fa/?p=collections/classifications&id=2>

【資料を特定できない場合】

「1970 年代のジャズに関する放送を調査したい」「特定のジャズメンに関する資料が見たい」など、調査の目的・トピックをお伝えいただければ、アーキヴィストが関連する資料を準備することもできます。

メールフォームでお申し込みの際には「閲覧を希望する資料」の欄に、ご希望のトピックなどをご記入ください。

※ 資料の準備にお時間を頂く場合がありますので、なるべくお早めにお問い合わせください。

外山恵子& Jazzin' Babies が熱演
銀座で年に１度の「ジャズひな祭り」

３月３日は、日本全国ひな祭り！　例年のように、ここ銀座では、女性ジャズ・ミュージシャンをリーダーに迎えた「銀座より愛を込めて『ジャズひな祭り』」が、8会場に15バンドを迎えて開催された**(写真下の左)**。

外山夫妻と普段のデキシーセインツは当然、恵子さんがリーダー。その名も『外山恵子& Jazzin' Babies』(またの名を「外山恵子と五人囃子」)…なるほど笛や太鼓の５人を従えています。恵子さん曰く。「本当に年に1度だけですよ」という、まるで七夕さまです。

今年の会場は、いつもの逆回りで午後２時、並木通りの「ナッシュビル」からスタート。WJF 会員の家族みなさん、「サッチモの旅」同窓生など、お馴染みの顔が目立ち、和気あいあいに演奏が始まる。恵子さんがリーダーだから、バンジョーをフィーチャーした曲もたっぷり。『チャイナタウン・マイ・チャイナタウン』に始まって、『テネシーワルツ』など、小一時間、たっぷり聴かせてくれた。

次の会場、「シグナス」も、まあそのまま“恵子ファン”が埋めてしまう。『C ジャン・ブルース』に始まって、最後はお待ちかね、恵子さんの『アイスクリーム』で締める。セインツの“五人囃子”を従えた恵子さんの独壇場。ジャズファンのみなさん、来年もこれはお見逃しなく！

玉川高島屋アレーナホール演奏会
THE大人たちのJOYFUL NIGHT

セインツもなかなか忙しい。2月15日（金）には、“THE 大人たちのJOYFUL NIGHT@TAMAGAWA”と銘打った、元気が伝わる！『外山喜雄とデキシィーセイツ・ジャズライブ』が午後7時から、半蔵門線二子玉川駅前の玉川高島屋 S・C 西館1F アレーナホールで開催された**(写真下の右＝**相馬威宣さん撮影)。

玉川高島屋S・C の主催で開演１時間前からワンドリンク付きのお食事をしながらライブを楽しむという、その名の通りちょっぴり大人っぽいムード。会場前から沢山のお客さんが行列を作り、すでに演奏が始まる時には会場のテーブルは満員。おなじみのWJF会員もあちこちに席を取って、スタートから大いに盛り上がる。

おなじみの「聖者の行進」、「ハロー・ドーリー！」、「A列車で行こう」、「リパブリック賛歌」などなど、ディキシー、スタンダード、ディズニー、サッチモ・メロディーが次々と飛び出して、幅広い客層を大いに楽しませる。ジャズのリズムにあわせて踊る子供たちも。

休憩を挟んで、日本の代表的なジャズコーラスグループ「ザ・シャイニーストッキングス」の山崎さと子さん(vo)が登場、かつて東京ディズニーランドで一緒に仕事をしていたこともあって、外山さんとデュエットで素晴らしい声をきかせてくれた。そんなこともあって、終演時刻を過ぎてもアンコールの拍手が鳴り止まず、大幅に時間をオーバー。まさにジョイフルな夜を過ごし、帰りのお客さんはどの顔も充実感で一杯だった。　**（奥村清文）**

米大使館報道室が外山夫妻を取材
オンライン・マガジンで大特集へ

2013年の新春早々、ビッグニュースが外山夫妻のもとに飛び込んできた。アメリカ大使館が、外山夫妻と WJF の活動を取材して大使館・領事館のオンライン・マガジン『アメリカン・ビュー』に掲載してくれるという吉報。

1月11日夜、千葉・浦安市のオリエンタルホテル東京ベイB1Fの「HUB新浦安店」、セインツ恒例のライブ会場にアメリカ大使館の広報・文化交流部報道室のステキな女性トリオ（記者、映像カメラ、英語編集者）が、にこやかにやってきた。

会場には、たまたま WJF 事務局の細川ハテミさんのグループ８人や、スタッフの伊藤咲子さん(ts,vo)、会員の方々など顔見知りのみなさんもあちこちに…。

それに宮城・多賀城からブライトキッズ OB の千葉隆壱クン（東北学院中＝ds,tp）のご両親が東京での隆壱クンも出演する東北学院のコンサートに出向いてこられて、このライブに立ち寄られた。さらにディズニーランドのスタッフら外国人多数も姿を見せて、それはもう超満員。 セカンドラインも大いに盛り上がった。

そんな中での取材だった。「アメリカン・ビュー」の詳細は次号で。

（写真は、千葉夫妻を取材するクルーの方々とセインツの演奏）

「スウィング・ドルフィンズ」渡米が決まる！

大まかなニューオリンズ・ツアー日程は次の通り

ニューオリンズ・ティピティナス財団から外山夫妻に入った連絡によると、先方ではすでに、この夏の「スウィング・ドルフィンズ」をニューオリンズに招いての大まかなツアー日程が、次のように調整されている。今後さらに詳細を詰めるとともに、例年恒例の「サッチモの旅」とのコラボ、兼ね合いも詰めていくことになる。

7月31日　ルイジアナ州ニューオリンズ入り

8月1日　ニューオリンズの観光： スウィング・ドルフィンズは、路面電車でニューオリンズのアップタウンを見学。ニューオリンズでのハリケーン被害と回復過程をしっかりと理解していただくために、被災地を回るツアーを実施。

8月2日　WWL-TV（昨年秋、キャスターと TV クルーが、ニューオリンズからのバンドともに気仙沼など被災地を回っている地元のテレビ局）**でのライブパフォーマンス：** WWL-TV は、ニューオリンズでも最高と評価されているニューススステーションで、ティピティナス財団のパートナーでもある。キャスターのエリック・ポールセンさんは、この日本への旅行に同行し、交流プログラムの前半をすでに報告しています。このポールセンさんと WWL-TV は現在、1時間にも及ぶこの交流の長編ドキュメンタリー番組を製作中。

きっとニューオリンズでも、またこんなシーンが再現されるでしょうね

中学校訪問と交換パーティー： スウィング・ドルフィンズは、ティピティナス財団が楽器贈呈プログラムを通じて交流のある中学校のどこか1つを訪問します。そこでスウィング・ドルフィンズとニューオリンズのバンドがお互いに演奏し、グループ・パフォーマンスとして協力していきます。パフォーマンス終了後、すべての学生は、交流パーティーで交換する機会を持つことになります。

8月3日　サッチモ・サマーフェストでの演奏： スウィング・ドルフィンズは、サッチモ・サマーフェストのステージに上って演奏するために招待されています。ルイ・アームストロングの人生と音楽に捧げられている、このジャズ・フェスティバルには、世界中からの熱心なお客さん数千人がやってきます。このパフォーマンスの後、スウィング・ドルフィンズのみなさんにも、パトロンとしてフェスティバルを楽しんでいただきます。

レセプション： ティピティナス財団は、ニューオリンズや日本の関係者、そして、この旅行を実現させてくれたスポンサーや組織を招いて、レセプションを開催します。

8月4日　ティピティナス財団のファミリー・フェスティバル： スウィング・ドルフィンズは、世界的に有名なティピティナス音楽クラブのステージで演奏する機会を持つことになります。先に来日したティピティナス・インターンバンド、オー・ペリー・ウォーカー高校チョーズン・ワンズ・ブラスバンド、ドナルド・ハリソン・ジュニアに加え、ルイジアナ・フィルハーモニー管弦楽団のアンサンブル、さらにはプロのニューオリンズのミュージシャンもまた、このイベントに招待されたニューオリンズ地域の家族のためにやってきます。スウィング・ドルフィンズのみなさんは、他の家族との親密な交流やこのイベントに出される伝統的な南部のお料理を楽しんでいただくことに加え、日本をツアーしてきた学生たちと一緒に楽しみ、ともに演奏します。

（セインツ・ジャズツアーは翌朝ニューヨークへ移動）

8月5日　ニューオリンズ市内観光： スウィング・ドルフィンズは、ニューオリンズの歴史的なフレンチ・クオーター地区を見学し、プリザベーションホールでは、トラディショナル・ジャズの演奏にも参加、さらに（承認待ちですが）ミシシッピ川を航行しているリバーボート（外輪蒸気船）「ナッチェス」号の上での演奏が企画されています。

8月6日　ルイジアナ州ラフィエットへ： 伝統的な南部ルイジアナ州の音楽に参加し、この地域の学生と交換するため、バスで2時間半かけてルイジアナ州の伝統的な都市ラフィエットへ出掛ける予定です。スウィング・ドルフィンズは、ラフィエット中学校で演奏し、若いラフィエット地区のミュージシャンとの交流パーティーに出席する機会を持つことになります。

スウィング・ドルフィンズは、ここの伝統的なケイジャン料理と、ケイジャン音楽とダンスの夕べを楽しむ機会を持つことになります。

8月8日　ニューオリンズから成田へ帰国

ニューオリンズのホテルについて、ベサニー・ポールセンさんから、アメリカのホテルは大きいので、できたらキングサイズベッドに女の子2人ずつで1部屋4人ではどうか(アメリカの学生旅行では一般的)との問い合わせがあり、「スウィング・ドルフィンズ」会長の須藤丈市さんに伺ったところ、下記メールをいただきました。感激です。（外山）

外山喜雄様

子供達にとっては「ニューオリンズ」に行けるだけでもう夢のようなお話です。

ましてやもう既にたくさんのご支援を頂戴した上でのこの度のお心遣い。

これ以上の贅沢を申し上げたら罰が当たります。

2年前の今頃（3月末）は、畳2枚のスペースに親子で何日間も避難生活を経験したメンバーが大勢います。

しかもほとんどが小柄な女の子です(男子は2名のみ)。田舎の子供達にとって「ホテル」と言うだけで大喜びです。

現地のご都合に合わせ、如何様にでもお取り計らい下さい。

先日、アレンジャーの小野寺君からようやく
「YOU'D BE SO NICE TO COME HOME TO」
の譜面が届きました。
現在、鋭意練習中です。
出来るだけ早くヘレン・メリルさんに御礼の DVD を送りたいと考えています。乞うご期待!

（ヘレンさんは、ドルフィンズに感激して、寄付を送って下さっていました。そのお返しなんです＝外山）

あの「石巻ジュニアジャズオーケストラ」―こんなに成長しました！
3月末には東京・八王子への演奏招待ツアーも

石巻ジュニアオーケストラの事務局長、石垣敦さんから関係各方面に送られてきたメールと「IJJO通信」を転載させていただきました。石巻ジュニアオーケストラの現況報告。添付会報の晴れ姿をご覧ください。(一部トリミングしています)

こちらは石巻ジュニアジャズオーケストラ石垣です。

先日は、素敵な場所で素晴らしい演奏環境を提供していただき、本当にありがとうございました。

我々のような初心者グループが演奏してよいものか自問自答しましたが、「演奏の上手下手はともかくご支援に対して〝元気な姿〟をごらんいただこう」と思いました。

(※ほぼ毎週配布している保護者向けおたより3/23号を添付いたしますのでごらんください＝**写真右**)

おかげさまでメンバーは現在24名で、ようやく軌道にのりつつある･･･という感じです。

◆**3月末**　東京八王子への演奏招待ツアー,
◆**4月27日(土)**　カルロス菅野さんのビギナーズワークショップ参加(石巻北高)
◆**5月26日(日)**　第20回サン・ファン祭りステージ参加(石巻)
◆**7月上旬**　とっておきの音楽祭(東松島)
◆**8月下旬**　石巻トリコローレ音楽祭というおおまかな予定で進む見込みです。

もうすぐ定禅寺SFの申込時期かと思いますが、演奏レベルがエントリーに値するかどうか、現在コーチスタッフで検討しているところです。

どうぞ今後とも、ご指導とお励ましのほど、よろしくお願い申し上げます。

仙台でのステージ、重ねて御礼申し上げます。

石巻ジュニアジャズオーケストラ事務局

http://www1.ocn.ne.jp/~ishijazz/

オー・ペリー・ウォーカー高校バンドが優勝！
米ルイジアナ州の中・高校ブラスバンド大会

昨年10月に来日して、仙台、石巻、気仙沼などを巡回、地元のジュニアバンドとも交流した、あのオー・ペリー・ウォーカー高校の「チョーズン・ワンズ・ブラスバンド」が今年3月24日、ニューオリンズで開催された「第2回中・高校ブラスバンド大会」(参加は選抜13校)で見事優勝し、1万ドル相当の楽器の寄贈を受けた。ローリンズ先生はじめ、あの顔、この顔…みんないますね。おめでとう！

昨年10月、ニューオリンズの高校生らのバンドとともに石巻市を訪れた際、現地でティピティナス財団からのバリトンサックスとWJF からのバス・トロンボーンを石巻ジュニアジャズオーケストラに寄贈。

ご寄付と嬉しいお手紙

ありがとうございます

◆緒方　文様（吹田市）トロンボーン

◆本多幾子様（渋谷区）トランペット

ドクタージャズ、中村宏先生が、防衛医大進学科の英語の教授、本田幾子先生から届いたトランペットを、浅草ハブのライブにお持ちくださいました。

本田先生のお子様が使われたトランペットで、先生もかつてジャズ・ヴォーカルを習われ、Billy Holiday がお好きだったそうです！！ありがとうございます。

中村先生には、日本ルイ・アームストロング協会の名誉会長、そしてデキシーセインツ応援団長のお立場で応援していただいております。心より感謝申し上げます。

◆永澤秀則様（福岡市）トランペット

自宅の整理整頓を行っていましたら友人から貰った「トランペット」が出てきました。古いもので　修理・再生出来るかどうか疑問ですが・・・　佐川急便で送付しました。

福岡市は昨日、桜の開花も発表されましたが・・・まだまだ寒い昨今です。上京してデキシーセインツの演奏を聴きたいのですが・・・「金があるときは暇がない、暇があるときは金がない」タイミングが合いません・・・。

そのうちに楽しみです。

◆増田満俊様（横浜市）ソプラノサックス 2 点、アルトサックス、テナーサックス

斑尾ジャズ2013」（8月24日）

求む！デキシーバンドの参加

「斑尾ジャズ2013」は、今年8月24日（土）～25日（日）の2日間、斑尾高原の特設野外ステージで開催されます（写真）。

日本ルイ・アームストロング協会は第1回から協力に名を連ねており、実行委員長の新山敏さんは同協会の会員で、この会報の山口義憲編集長も例年、司会として参加して↗います。

高原の爽やかな環境のもと、ビールを片手に、約20のバンド／ビッグバンド、多彩なコンボ陣の個性あふれる演奏を楽しむこのジャズフェスティバルは、今年第7回を迎えます。WJF の例会でもおなじみの、ジャズ評論家、瀬川昌久氏も特別審査員として参加しています。今年はぜひ“デキシーバンド”に参加してほしい、と主催事務局は期待しているのです。

参加希望者は開催要項

http://madaraojazz.naganoblog.jp/e1213642.html

をご参照のうえ、この斑尾で日頃の研鑽のジャズをぜひご披露していただきたいと思っています。ご応募をお待ちしています。

<お　詫　び>

ワンダフルワールド通信75号名簿に、お名前が抜けておりました。深くお詫び申し上げます。

賛助会員　室橋洋子様（千代田区）

募　集　中！

♪ジャズを愛する皆様
どうか会員になって下さい！！
また皆様のお知り合いの方々に
ぜひ、ＷＪＦへのご入会をお勧め下さい

＝WJF年会費＝

一般会員(General Membership)	¥6,000
学生会員(Student Membership)	¥3,000
賛助会員(Friends of Louis Armstrong)	¥12,000

■会費のお振込み先■

郵便振替　00110-4-415986
ワンダフルワールド・J・F
銀行振込　三菱東京 UFJ 銀行浦安駅前支店
普通：5175119“ワンダフルワールド”

お問い合わせは：WJF事務局
TEL：047-351-4464
Fax ：047-355-1004
Email:saints@js9.so-net.ne.jp

日本ルイ・アームストロング協会HP
検索エンジン：Yahoo,Google で
ルイ・アームストロング

編集長から

トップ記事はユネスコ国際ジャズ・デー（4月30日）参加についてで、外山夫妻の国家戦略大臣表彰記念コンサートと、WJFの原点でもある映画「サッチモは世界を廻る」（本邦初字幕付き）および日本のジャズ界の大先輩たちのトークで構成されるステージは、渋谷「伝承ホール」での開催　▼おなじみの“トローンボーン・ショーティー”が、ホワイトハウスでオバマ大統領と共演したというトピックスは3ページ。続くページで音楽、芸術など文化教育に力を入れるオバマ大統領とミシェル夫人のジャズへの思いも、WJFならではの共感のこもった記事　▼新春恒例「デキシーランドジャズジャンボリー」と昨暮のクリスマスパーティーの記事は、日本のジャズファン健在を伝えるものです　▼WJFの源流について「とんかつ双葉」のページで山口が書き、慶応大学の油井正一アーカイブにつき、奥村理事がレポートしています。その他、コラムやスイング・ドルフィンズの渡米：盛りだくさんの会報をお楽しみください。（山）